

4車線化いつ完成する？ 東名阪道鈴鹿ICまであと1.9キロ

鈴鹿インターと市中心部をつなぐ「鈴鹿中央線延伸バイパス道路」は、計画ができてから30年ほどになります。汲川原橋から三畑町までの新設道路に続いて、既存の県道(神戸長沢線)の4車線化約3キロのうち、フラワー道路との交差点手前までの1キロが完成し今はフラワー道路交差点を含む0.1キロを施行中。残りの鈴鹿インターまでの1.9キロは、これからの計画となります。

6月15日の本会議一般質問で、私は4車線化の見通しについて質問しました。いま工事中の新名神高速道路が2018年度に完成すると、東名阪の慢性的な渋滞が解消され、鈴鹿ICの利便性も良くなり交通量の増加が予想されます。しかし料金所を出てすぐのアクセス道路が現状2車線



現在2車線の東名阪との交差点(長沢町)

のままでは、混雑が解消されません。私は、東名阪の下を抜ける部分の幅がいちばん大きな工事になるが、検討は行われているのか尋ねました。

新名神開通後の「しかるべき時期」に協議する

答弁では、事業を行なう三重県鈴鹿建設事務所の方針として、当面は東名阪の手前までの1.3キロ区間の工事を行ない、その後に東名阪との交差部分について、新名神開通後の「しかるべき時期」に、ネクスコ中日本との協議を行なう、とのことでした。聞いていて、いったい鈴鹿ICまでの工事完成はいつになるのやら、本当にやる気があるのかしらと、心配になりました。

国民健康保険の仕組みが変わります

来年度の4月から、鈴鹿市の国民健康保険の制度に大きな変更がおこなわれます。それは 国保の財政運営に、三重県が加わり責任主体となる、国保の住民負担が「国保税」から「国保料」に変更される、という点です。

国保財政の運営が三重県で一元化され、市とともに県が主体となります

現在は「鈴鹿市国民健康保険」として、業務全般を市が行なっていますが、来年度からは県が国保財政の責任をもつこととなります。県は各市の医療給付に必要な費用を「交付金」として支払いますが、一方で市の負担すべき保険料を「納付金」として決定・徴収し、市はその納付金分を市民から国保料として徴収します。しかし市民にとっては、窓口は市役所の保険年金課のまま、保険証も保険料の納付も今までどおりで、急に変わることはありません。

県は三重県中の国保の財布を握ることになり、カネを出すだけでなく口も出すようになります。（ただし県の財政から市を支援することはありません。）また、それぞれ事情が違う各市の「納付金」の決め方も、県の決めた方式で算定され、その金額によって、市民の払う保険料が増減します。市独自の施策で、一般会計から繰り入れることも制限されるなど、市にとっては、非常にやりくりが窮屈になります。国（厚労省）の指導も、県を通してストレートに入ってきます。

「国保税」が「国保料」に変わります

これまで鈴鹿市は、国保への市民の負担を「税」として徴収してきましたが、来年度からは「料」に変更されます。また、算定方式から「資産割」をなくして、「所得割」「均等割」「平等割」の3方式に改められます。

「料」になって変わる点は、市民税、固定資産税などの市税とは別に、保険年金課が算定し、徴収する。納付相談や滞納の対応も、納税課から保険年金課に移る。徴収の消滅時効が5年 2年となり、支払能力のない人などの判断、欠損処分を迅速に行なえる。などです。

「料」になっても、かかる保険料の金額は変わりませんが、窓口が一つになることで、困った時の相談が行きやすくなります。

清掃センター、白子中を視察

6月20日、文教環境委員会のメンバーで現地視察に出かけました。最初は御園町にある清掃センター（可燃ごみ処分場）、今年から3つの焼却炉を順に更新しています。日常業務をしながら工事をするという難しい手法ですが、その現場を見せていただきました。



清掃センター内、可燃ゴミ搬入口

収集車で集めてきたゴミ、個々に持ち込まれたゴミを深いピットに投入、均質になるように混ぜてから焼却します。焼却熱を利用して発電タービンを回し、場内で使う電気に利用、また中電に売却し年間約1億円ほどの収入になります。

また焼却で出た灰は、場外に搬出しセメント会社などで再利用されています。

次に訪れたのが旭ヶ丘にある白子中学校。生徒数1072人、学級数34、教職員83人という県下有数のマンモス校です。古いのは昭和36年建設という校舎の老朽化もあり、教室不足をプレハブでしのいでいる実態を見てきました。

百聞は一見に如かず、頑張っている様子や問題点もよく分かりました。



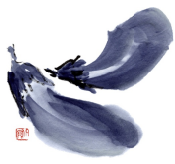
白子中正門と校舎

7月からソーラー発電施設のガイドライン施行

市内のあちこちに太陽光発電の施設が設置されてきています。自然エネルギー利用の発電が広まるのは良いのですが、一方で設置場所の周辺住民とのトラブルも起こっています。6月議会で森川議員が、市としての対応を求めたところでした。

この7月1日から、三重県が策定したソーラー発電の「ガイドライン」が施行されました。鈴鹿市では、担当窓口を環境政策課にまとめる。ソーラー事業を行なう者は、市に事業概要書を提出し、市は地域住民への説明などを指導する。また住民からの苦情、相談にも対応する。としています。

ずいそう



やった！東京都議選で躍進

7月2日投票の東京都議会議員選挙で、自民党が大きく議席を減らし、日本共産党が17から19へと躍進しました。「都民ファースト」という新勢力が人気を集める中で、共産党も現有議席を守れないかとのマスコミ予想もあって、開票結果が出るまで心配していましたが、2議席増とのニュースに胸がスカッとしました。



杉並区の前原あきら都議

私も「全国からの支援を」の呼びかけに答えて、6月21～22日に東京に出かけ、杉並区の前原あきらさんの応援の活動に参加してきました。上の写真は阿佐ヶ谷駅前の宣伝、右端に私が写っています。右の写真は荻窪地域の住宅街での宣伝。自転車のスピーカー積んで、辻々で訴えました。

前原都議は42歳、区議4期14年のベテランで、得票を大きく伸ばして吉田信夫さんの議席を引き継ぎました。すごいと思ったのは、党の後援会以外に、若い人中心の「勝手連」があって、独自の事務所をもち独自のビラを発行して前原さんの応援に駆け回っていたことです。最近の選挙では、都市部でも地方でも共産党のワクを超えて、無党派層の市民が支持を広げている所が増えています。「共産党の選挙」ではなく「自分たちの選挙」として、頑張っているのです。

今回の都議選の結果は国政にも大きく影響し、アベ政治を終わらせる政治的な激動につながるきっかけになるのではと思います。。

共産党の新都議のメンバーを見てみると、新人が8人、現職が11人、また女性が13人もいます。年代でも20代1人、30代2人、40代3人、50代7人、60代6人と世代も多様。フレッシュで多彩、これから都政のあらゆる面での活躍が期待できます。

別の視点で見ると、14選挙区で自民党を破って当選、自民党の「歴史的な大敗」に大いに貢献したとも言えます。



杉並区荻窪の住宅街で